

会報

T.U.W.V
OB会

OB会費 (東北銀行川崎支店
東北大学ワンダーフォーゲルOB会
振込先 普通口座「370-1881604」)

幾久会20年会

40年卒 小原佑一

2日間の休みをとって秋田、岩手県境の藪山に入るつもりが休暇の都合で結局、前夜発となり歩く山も急に変更することになってしまった。

皆が帰宅した後のオフィスで着替えて上野駅にむかう。途中ラーメンを啜って、夜のプラットホームに小さなザックを肩にならんでいると、時は20余年前に戻ってサントリーのポケットピンと”あたりめ”でチビリ、チビリはじめると、もうオフィスのことなどすっかり忘れてしまいます。

新幹線が通っているのに夜行列車でコトコト山形に向かう。山形駅のベンチで一休みして、仙山線の一番列車に乗り込む。ガラガラの列車の窓から雨に煙る山の裾を見ながらいると、気分は完全に現役に戻ってしまっている。

山寺の駅に降りると小雨か、朝早いせいか無人駅のようにヒっそリとしている。傘をさして歩きはじめるが、以前歩いた道とはまるっきり変わって両側の家はアルミサッシときれいな色の瓦になってしまっている。畠もいちごのビニールハウスになり、その間をぬけて悪名高い林道の分岐までくると、ようやく昔の記憶と合ってきた。林道から沢にそった小径に入ると手入れのきちんとされた20年前の二口になってくれた。千本桂をすぎて最初の休みをとる、雨は降ったり止んだりだったが風はなく傘をさしてハイペースで進むことができた。象の鼻が土砂に埋まってしまったことを除けば全く昔のままであった。沢を離れちょっとした坂を登り詰めると今度は別世界が急に目の前に現われた、砂利のしかれた立派な自動車道路が峠を傷付けている。通る車もない雪に荒れた道路をくだっていくと神室の神々しい姿がガスのきれ間から正面に見えてきた。

20年前は我々の背丈程の植林したての針葉樹が立派な林になってしまいその木々の間に翠雲荘を見た時には20年の時をかんじてしまった。

しかし、小屋はすこし古くなったが昔とほとんど変わりなくきちんと建っていた。内に入ってみるときちんと整理されており相変わらず気持ちがいい。窓をまきの棒で開けて山形駅で買った弁当を食べながら例のノートをながめているとTUWVの文字が散見される。小松原沢の銚子の大滝によく入っているようだが、神室の南面の沢のことは誰も書いていなかった。ストーブでまきをもやしてみたかったがストーブがいたんでいるのでやめて小屋をあとにして、車の通らない広い砂利の道路を歩いて表磐司まで来ると釣り人の車があった。

野尻にいる昔の悪友の家へ寄ってしばらくダベッテから小型トラックで皆の集まるっている秋保温泉のホテルまで送ってもらった。

20年前と変わらない顔が背広を着てやって来た。仕事の関係で参加できなかった人もいたが半数以上の10人が顔をそろえることができた。例によって話題はつきず痔の話は八木が最新の情報をしゃべり、関川はさらに高度な医学の先端技術を披露し、酒が入ってますます皆、話に弾みがついて、ついには参加できなかった仲間に電話をして奥さんにいやがられまでして、飲み、騒いで楽しい時を過ごした。

この次を30年会にするにはちょっと間が永すぎて心配なので25年会に
でもしようと決めてしまった。

ワングルを卒業してから同期で集まっているということはよく聞くが中々
皆が集まるのはむずかしい、まして山に入ることは更に困難となってしまうだろう。
今回、無理して二口峠を越えて集中地に入り、少しでも山の匂をもっていけたことは
ワングルを忘れたくない気持ちだったかもしれない。

しかし、ちょうど1カ月前に出張の途中に見た北極の氷の上で悪戦苦闘し
ていた人がいて、その人たちとあまり変わらない年齢なんだと思えばまだまだ山に入
れるような気がしてくる。

OB会報に初めて記事を載りよかったです。
 二十才の頃は社会に出て山歩もしていましたが、三才の頃を思い出して、昭和十七年に建設
 局の山小屋(伝蔵荘)を昭和四十七年に建設
 して、その間に十四年が過ぎました。今春の
 例会にもOB七名が参加し、山菜取りブルフ
 と楽しい時間を過ごしました。
 また今夏はOB会山行の集中地に使
 用しているたけなや山小屋に宿泊するに決
 定しました。たけなや山小屋(昭和十八年
 建設)は、昭和十八年建設、松本功

このたびは「OB会報」も発行するとの
 こと、いつもお世話様です。
 当方はいなわ町で相変わらずのんびりと平和な
 新聞記者生活。もちろん今年前半はいろいろ関係の
 殺人事件や心中事件が相次ぎ、週刊誌の記者が
 三回も取材にやってきました。こんなことは空前にして
 地味でしょう。子供は小学校を卒業、月日かたつのが
 このところじいちゃん早くも死んでいます。山の方は
 ずいぶんお静かです。そのかわりでも「OB」ですが、
 去年の「釣りを始め、松本功や相馬佐吉、カシイヤアイナメに
 参加します(いなわ町に釣りに行きます)」渡辺幸英(8期)

昨年9月より、関連会社に出向しており
 まして、後頭部が寂しくなり小さくさ
 あわせて、自分の歳を自覚している。
 今日此頃です。生活の知覚は従来以上
 に、酒と麻酔の頻度が高くなり、週末
 は、くり休養という怠惰な生活に
 慣れてはっています。
 そんなわけで、昨年5月に長女(当時
 七歳)と、箱根外輪山(14ヶ所)(明神が岳、明臣
 が岳)に行き、登りで長女について
 いくのに苦労して以来、山には登り
 いません。これは、志れた頃に、2人目
 の娘が(今年の7月で2才)でまた
 おかけがあるのですが、家族全員
 での山行の実現に情熱だけ
 は失うまいと思っています。
 水上俊彦(8期)

いつもOB会報ありがとうございます
 ございす。
 この数年山のカスタム日記を
 書いて、トレーニング日記と
 昼休みはバスケットボール、休日
 はバドミントンORテニスと汗を
 流してはいます。
 今年の五月は本当に久しぶ
 りに「奥山」に行き「まだ歩ける
 ものだ!!」と思っこの頃
 ぞす。
 どのほど
 横波西
 5.42年(6期)



我が山に 依蔵荘

後藤龍男(39年)記

昭和47年の暮、北入岳中腹に山荘を作った。"依蔵荘"と名づけ、以来12年余に亘る。オーナーは安部、生駒、後藤、佐藤、木本、遠山(39年)、及川(40年)、榎、淡川、藤田(41年)と木本の弟である。佐久平岩村田在住の保氏、計11名である。

OB諸氏にはこの記憶の方も多かつたが、"依蔵荘"とは昔通のめたニ口山荘、直下の例の道林小舎の名である。あの頃、こゝは小舎を1つかは自らが"作るんた"などと語り合っていたが、正直1つ2夏のまた夏と想っていた。

昭和46年、木本が北入岳山麓の八千穂村が村営の別荘地を楡安で売り出した。話を聞かされたとき、昔の夢を實現するこゝにたつた。

39年同期のメンバーは資金が集りやす、新橋亭のOB会で賛同者を募ったところ、意気投合したのが前述のメンバーである。

依蔵荘は小海線八千穂から麦草峠へ向う北入岳横断道沿い、標高1200米余の落葉松林の中にある。皆稲畑にたつた安部給の頃に作ったのだから、安部給のまじりはあるが、安部は落葉松林作りの平屋建ても12年たつて見ると遂に山荘らしい風格がでてきたかの雰囲気である。自慢は本格的な暖炉で、太めの薪がチリチリ燃えるのがおもしろいから一杯やるのはこたえなく。

春と秋の豊作には例年と称しメンバーが集り、メンバーを兼ねた"薪割り、水汲み小屋掃除"と山菜の酒、の2晩を楽しむ。車で30分も登ると麦草峠。ここから足を延ばせば北入はすべて掌の中である。初めの頃は「北入の彷徨」も作られたが、皆年々たつたのが、飽きたのが、最近にはむしろ「八千穂高原」の場「彷徨」である。夏のシーズン中はメンバーが「八千穂高原」に滞り家族連れで滞在する頃、この近くを通るころから是非立ち寄られた。運がよければコーヒー位は馳走でござい、気が向いたら一晩泊さしてござい。

昔登った山や仙台時代の話を肴に楽しい一夜を過ごす。こゝもまた。

昭和60年5月

(依蔵荘所在: 長野県南佐久郡八千穂村八千穂高原別荘地(41号)
小海線八千穂駅より約8km 車にて15分

== OB山行のお知らせ ==

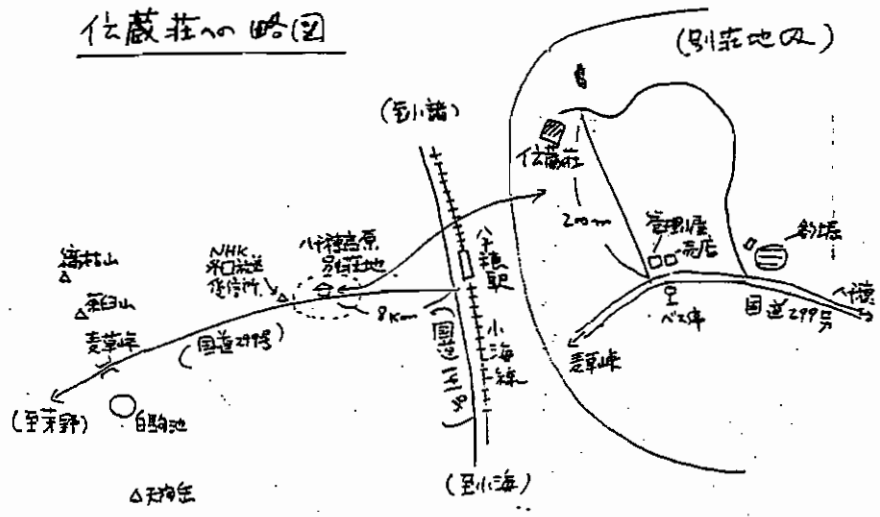
夏の北ハケ岳に集ろう。赤岳～天狗コースもよし、麦草峠越えもよし、あるいはドライブ(山行?)でもよし ---- とにかく集、てみよう。

- 集中日: 8月24日(土)夕方
- 集中地所: 伝蔵荘

○ コース等は各自自由に組んで下さい。
 エssen(なつかしい響き!)も各自で適当に用意して下さい。

○ 尚合先
 佐藤 拓哉
 0468-41-8622

伝蔵荘の略図



長野県南佐々郡 八千穂村 別荘地 14号 (杉木)
 (管理小舎で直前に200円)

○ 厨房設備その他風呂、ガス、水道、電気おんこ宝器にしまふ。食料の材料のみ持ち寄り下さい。近くに売店もあり、油、米、シ、などの他、野草は入年で買える品物数多く(特に生の、野菜は200円) 産の所に購入用意して頂くかよい。

- アプローチは次の通り (略図参照)
- ① 車での内題はし 八千穂駅 15分、麦草峠 30分
 - ② タクシー 小海線 八千穂駅 15分 (2000円程度) (麦草峠まで電話で呼び出せる。ガスは500円)
 - ③ バス 八千穂駅 ↔ 麦草峠 同シス中運行(2回本/日) 途中、八千穂、高原別荘地 休停箇所にて下車徒歩5分
 - ④ 徒歩 八千穂駅より 少くとも2H 麦草峠(ヒコテ)より 半日以上 (4000円)

—昭和59年度決算—

収入	
前年度繰越	576,221
会費	40,000
利息	7,630
新年会残金	2,820
計	626,671
支出	
次年度繰越	626,671
計	626,671

事務局より

- 558年以降に卒業された方の住所を御存知の方は、佐藤 (S. 44年卒) までお知らせ下さい。
- 今年の新年会は12名参加の史上最小規模でした。週休2日制も定着したようですので、来年からは1月の最後の金曜日に変更したいと思います。(場所: 新橋亭本店(新橋))

* 会費(1000円/年)は、1ページ目の口座へ振込んで下さい。